

平成 24 年度予算の概要

(1) 予算編成方針

1. 平成 24 年度予算編成にあたっては、前年度予算方針（10 年後の変化が加速する 2020 年への備えを 5 年後の 2015 年までに実行する。）を引継ぎ、健全な財政状態と経営成績を維持していくことを基本に、①本学の強みを伸ばし、②弱みは正す、或いは切り捨てる取組みを促進していく。新規案件は既存案件を見直した上で「リサイクル」の考えをもって取組むこととし、各部署はその取組みの狙いと意志を予算編成に盛込むものとする。
2. 平成 24 年度は、前年度から始まった大規模改修工事（3 年間）の二年目にあたり、一号館と四号館の教室、研究所、学科研究室等の改修を計画しており、前年度同様、限られた財源の捻出の為には常に従来予算配分の見直しを心掛け、長年続いた既得予算を、「全体最適」の観点からどう組み直していくか、について、引き続き広く学内での検討に取り組むこととする。
3. 財務の健全性維持の為、次の数値管理を本年度も原則とする。
 - 1) 現時点での帰属収入の 8 割相当額を手元流動資金として確保する。
 - 2) 人件費比率（每期帰属収入に対する人件費の割合）を 50%台に留める。
4. 学生納付金は、学部、大学院とも据え置きとする。
5. 入学者数は、学部 440 名、大学院 15 名とする。
6. 補助金は前年並みの獲得を目指す。
7. 人件費は、教員が前年度比 2 名増の 53 名、職員が 1 名増の 49 名を予算に見込んでいる。教員については、前年度並びに今年度（平成 22 年/23 年度）の退職者の補充や交代人事が一部実施されていないことから、目下、24 年度以降の教員数や補充・交代人事に対する考え方につき検討が為されている。職員については、大規模改修工事の狙いの一つである、縦割り業務を変え、より効率且つ活性化に向けた業務体制への転換に取り組んでおり、一人一人の生産性を高めることで、平成 24 年度以降も 49 名を超えない人員でより多くの仕事をこなしていく体制を整備していく。教員についても、54 ないし、53 名

の枠をもって、補充や交代人事を実施していく。こうして、上述 3.2) の人件費比率を 50%台に留める取組みを続けていくが、それでも平成 26 年度以降には 60%を超え続ける数値が予想され、人件費以外の費用の抑制、更に学部入学者数 440 名を減らさない為の全学的取組みも併せて必要である。

8. 基本金組み入れは、2 号基本金組入れ（1 号館建替えに備えた毎期 1 億円の積立）を継続し、新たに改修工事分（二年度の 6 億円）等々で 8 億円程度を見込む。

（2）消費収支予算書の概要

平成 24 年度消費収支予算は、帰属収入合計 24 億 7,714 万 7 千円、これに基本金組入額 7 億 843 万 3 千円を差し引いた消費収入の部合計 17 億 6,871 万 4 千円になります。一方、消費支出の部合計は 25 億 7,717 万 1 千円となり、消費収支戻は 8 億 845 万 7 千円の支出超過となる見込みです。これに前年度繰越消費支出超過額 24 億 8,964 万円を加えた翌年度繰越支出超過額は 32 億 9,809 万 7 千円の見込みとなります。

前年度予算との対比では、帰属収入は前年度とほぼ同額となっております。基本金組入額はキャンパス再編に関わる 3 年計画の 2 年目にあたり平成 24 年度は 1 号館と 4 号館の改修工事を計画しており、前年度比 8,530 万 9 千円増加するために消費収入の部合計は前年度比 9,154 万 1 千円の減少となる見込みです。一方、消費支出の部合計は、教育研究経費の内 1 号館外装工事で 9,790 万円を見込んでいるため、前年度比 7,843 万 6 千円増加します。この結果、当年度消費支出超過額は、8 億 845 万 7 千円となり前年度比 1 億 6,997 万 7 千円増となる見込みです。

（3）資金収支予算書の概要

平成 24 年度資金収支予算は、前年度繰越支払資金を加えた収入の部合計は 56 億 8,185 万 5 千円となり前年度比 3 億 1,110 万 7 千円の減少となる見込みです。これは資産売却収入が前年度比 9,268 万 6 千円減少したことと前年度繰越支払資金が前年度比 2 億 5,937 万 2 千円減少したことによります。

これに対して、支出の部では、1 号館と 4 号館の改修工事等に対する施設関係支出の増加により、当該年度支出合計は 35 億 5,621 万 1 千円となる見込みです。この結果、次年度繰越支払資金は、21 億 2,564 万 3 千円となる見込みです。

以 上